

論証型レポートにおける
アウトライン構成に関する教育方法の検討
A study of an educational method for outline construction
in demonstration reports for university freshmen

学籍番号：201221591

氏名：坪井 優美

Yumi TSUBOI

現在、日本の大学教育ではレポート・論文の書き方等の文章作法など「表現を伝える活動」の能力に関する取組が多く見られる。しかし、大学生に対する調査では、「情報の収集」、「計画」や「構想」など、表現内容を出させる前の段階である「内容を考える準備段階」により強い苦手意識を持っていることが示されている。

そこで本研究では、「内容を考える準備段階」の内の「構想」に関する教育・支援として論証型レポートにおける文章構成（アウトラインの構成）に着目し、大学一年生105名を対象とした実習内容の開発・実践を行い、学生が取り組んだアウトライン構成の分析を行った。

アウトライン構成とは、ここでは「必要な情報を収集し、情報を意見と合わせて組み立てる」という、文章として書き出す直前の最終的な形にする際の過程を指す。また、その内容には論証を行う上で必要となる論証の構成要素が含まれている。本研究では、「就職活動開始時期の変更について反対」というテーマ主題、テーマに関する資料、ワークシートを与え、「キーワードの抜き出し（過程1）」「キーワードの並び替え（過程2）」「アウトラインの構成（過程3）」という3つの過程を通してアウトラインを作成させた。また、過程ごとに作業結果に含まれていた論証の構成要素・種類数（計18種類）などを分析した。その結果、95人から分析に対する同意が得られ、主に以下のような結果が示された。

過程1においては、全体の半数以上の学生がテーマについての基礎的な情報や「経団連の指針の問題について」など論証の中心核となる要素を取り上げていたうえ、過程2においても半数以上が同様の要素を取り上げていた。また、過程3においては、過程1から多く取り上げられてきた要素以外については全体的に数が減少していた。

さらに、過程3での要素の種類数を高中低得点の3グループに分類し、過程1から3における構成要素をグループ間で比較したところ、過程1の時点で低群は論証の中心核となる要素について、どのキーワードに対してもほとんど取り上げていなかった。また、高中低群における項目A「書き出したキーワード」、D「並び替えたキーワード」、F「アウトライン」間による要素の種類数の検討の結果、項目Aでのキーワードの種類数の合計数は低群よりも中群の方が、種類数が多く見られた。過程2においては、並び替えたキーワードの要素の種類数の合計数に対し、低群よりも中群および高群の方が、種類数が多く見られた。また、過程3においては、低群よりも中群、また中群よりも高群において、取り上げられている要素の種類が多く見られた。

研究指導教員：鈴木 佳苗

副研究指導教員：平久江 祐司